

地域の絆をつくる

地域の危険箇所を把握し、
災害時に役立つ防災マップを
つくりましょう



長岡市



地域の危険箇所を把握し、災害時に役立つ防災

目的

災害が起こった際に地域にどのような危険が潜んでいるかを地域の皆さんと一緒に確認することで、情報の共有を図ります。また、災害時に起こりうる危険（課題）に対して地域でどのように対処したら良いかを地域の皆さんと一緒に考え、備えに取り組むことで、災害に強い地域づくりを進めます。

実施内容

地域の皆さんで、災害時に近づいてはいけない危険な場所や役立つ防災資源を把握、共有しながら、地域の「防災マップ」を作成します。

ワークショップ(初回～)

地域の危険箇所等の洗い出し

地図や現地の確認を通じて、地域内にどんな危険があるか、役立つ防災資源や避難場所がどこにあるかを確認し、地図に落とし込みます。

ワークショップ(第2回～)

地域課題の検討と防災計画づくり

確認した内容に基づいて、地域での心配事や、それに対して何ができるか（誰がいつ、どのように）を検討し、検討結果（安全な避難経路等）を地図に落とし込みます。

ワークショップ(最終)

成果発表

作成した防災マップを発表、配布し、地域の住民間で情報を共有します。

防災マップの活用

定期的に見直しを行うことで、地域の防災活動の活性化につなげましょう。

倒壊のおそれがあるブロック塀など、地域内の危険箇所の改修や改善について話し合いましょう。



ワークショップを進める上で

ワークショップは、地域のさまざまな方々から参加していただくことで、多様な意見や経験を共有することが可能になります。

また、地域の防災力を高めるために欠かせない「住民のつながり」を深めるきっかけとなります。年代・男女等を問わず様々な立場の方の参加を呼び掛けましょう。

〈防災マップ作成例〉



把握しておきたい地域の情報

- 確認したい地域の危険
 - ・急傾斜地
 - ・土石流危険渓流
 - ・浸水するおそれのある低地
 - ・急な坂道や階段、狭い道路
 - ・地震で倒壊のおそれがある建物
 - ・出火による延焼危険の高い地域
 - ・地震で落下するおそれのある看板や高層ビルのガラスなど

- 確認したい防災の情報
 - ・避難場所、集合場所
 - ・安全な避難経路
 - ・防災資機材の格納庫
 - ・消防団の車庫など

- 地域の防災資源
 - ・公衆電話の設置場所
 - ・井戸や貯水タンク
 - ・消火栓・防火水槽・プール
 - ・工務店や建設会社
 - ・病院・薬店
 - ・アマチュア無線愛好家
 - ・防災機関に勤務した経験のある人など

準備するもの

- 町内の地図（手に持って歩けるサイズ・地域全体が入る大きなサイズの2種類があるとよい）
 - 筆記用具、マジック
 - シール、付箋紙
 - カメラ
 - ビニールシート（透明なポリ袋も可）
- など

地域で災害に備える

災害はいつやってくるかわかりません。そして必ずしもいつも行政による支援【公助】が当てになるとは限りません。だからこそ、自分で自分や家族の身を守る【自助】や、自分だけでは何とかならない時に隣近所で助け合う【共助】が必要になってきます。

特に【共助】については日頃から隣近所の方々と話し合っておくことが大切です。また、日頃から自分の地域でどんな災害が起こる可能性があるのか、そのイメージづくりをしておくことも大切な災害への備えの一つです。



3日間をしのぐ備蓄

災害が発生した直後は、ライフラインの寸断や交通の混乱等により、必要な物資の確保が困難になる場合があります。

このような時に一定期間、生活することができるよう、家庭での備蓄を進めましょう。

- ①各家庭において、**家族の3日分程度**の食料や飲料水等の備蓄
- ②食物アレルギー等、**食事に特別な配慮**が必要な方の3日分程度の分量の確保
- ③カセットコンロ等調理用**熱源及び燃料の確保**
- ④石油ストーブ等**停電時でも使用可能**な暖房器具及び燃料の確保
- ⑤その他、**家族構成に合わせた**、震災時に必要な物資の備蓄
- ⑥**孤立が予想される集落の住民は、最低7日分**の食糧、飲料水、生活必需品、燃料を各家庭で確保

長岡市 危機管理防災本部

〒940-8501 新潟県長岡市大手通1丁目4-10
TEL 0258-39-2262 (直通)

平成26年3月